2011.3.11 東日本大震災

現地支援委員会

from 東北　ニュースレター

「第 36 号」

2019 年 1 月 16 日

全国諸教会・伝道所の皆様、日頃からお支えと励ましをありがとうございます。２０１９年が始まり、東北の被災各地では、新たな気持ちで歩み始めた方々や、放射能被害をはじめ未だ課題の中にある方々がおられます。また新年早々、熊本などで地震が起きていることにも心が痛みます。２０１９年も引き続き、主の御心を伺いつつ活動を行っていきたいと思いますのでお祈りください。また、先月のクリスマスには全国の皆様からご支援をいただき、それぞれの被災場所を訪問することができました。今号ではクリスマスの活動の様子をお届けします。皆様に心から感謝して。

支援地での８度目のクリスマス

大槌町安渡仮設住宅訪問

１２月１日（土）安渡仮設集会所を訪問。お茶っこをしながら聖書紙芝居、アルトサクソフォンの演奏でご一緒に歌を歌いました。ハンドクリームやシクラメンの花をお贈りし、交流の時を持ちました。
総勢２３名、参加教会：南光台、山形、盛岡

お贈りしたシクラメンの花鉢とクリスマスカード

給分浜高台新集会所にて

牡鹿半島訪問

牧浜集会所にて
今は再建住宅や復興公営住宅で生活しておられる皆さんと久しぶりに「お茶っこ」を楽しみました。
他にも鮎川、黒崎、給分浜、竹浜、荻浜、月浦の各住宅にお花やクリスマスカードなどをお配りしました。

石巻市立荻浜保育所よりクリスマスプレゼントのお礼状が届きました

亘理訪問

仮設住宅から出られた約２０軒のお宅を訪問してシクラメンをお届けしました。

洋光台教会や大井教会からのプレゼントもお届けしました。

独居高齢者の方々を励ますことも大切にしています。

亘理の津波被災地は運動公園に生まれ変わろうとしています。

追悼　金子 千嘉世先生

２０１８年９月９日、現地支援委員会第３５号の発行にあたり、金子千嘉世先生は、「これまで緑ヶ丘仮設住宅支援を支えてくださった全国諸教会の皆さんにお礼の気持ちを書きたいです。」と、病床からレポートを送って下さいました。その翌月１０月２０日に、召天されました。

震災発生から召されるまでの７年７か月。共に課題に向き合い、祈り、主からの召命を受けて、郡山コスモス通り教会の牧師に就任後、福島を中心に被災した地域へと足を運び続けられ、そこで見聞きしたことや被災された方々の苦悩を私達現地支援委員会に、そして、ニュースレターを通じて全国に、伝え続けて下さいました。金子先生は、時間の経過により深刻化する問題が、より見え辛くなってゆく現状を伝え続けることの大切さを、最後まで訴えておられました。仮設訪問という形の支援は終わりましたが、これからも、主に祈り求めながら、私達に託された課題に向き合っていきたいと思います。最後に、ニュースレター第２号発行にあたり、２０１１年１０月に金子先生からいただいた報告の抜粋を分かち合いたいと思います。

「震災から７か月たった今は、瓦礫の中から遺骨が出るようになりました。『主よなぜですか。』思わず問いかけずにはおられない風景がそこにあります。それでも『荒れ地よ。荒れ野よ。喜び踊れ。』（イザヤ３５：１）この御言葉が心一杯に迫ってきます。どこに主がおられるのか、その時、あなたは何をしておられたのか。思わずつぶやいてしまうのですが、そこで私たちと一緒に瓦礫を拾い、涙を流している方の横に寄り添う主にであうのです。」

金子先生のこれまでのお働きの全てに心から感謝申し上げます。

（広報担当 牛木 さくら）